



発行所
天理教網走大教会
布教部出版広報掛
〒093-0073
網走市北3条西6丁目
TEL 0152-43-2227
FAX 0152-44-2227

大教会長年頭挨拶

新年明けましておめでとうございます。

昨年中は年祭活動仕上げの年にあたり、お道の上に又大教会、それぞれに繋がる教会へ、力一杯ご尽力を賜りましたこと心より御礼申し上げます。いよいよ教祖140年祭を迎える年となりましたが、真柱様は本年の年頭挨拶にて「今年は年祭という一つの節目を目指してつとめてきた、その結果が表れてくるのであります」とのお話を下さいました。

今年の大教会活動目標は「全ようばくおぢばがえり」と掲げ、

1月26日より、網走大教会に繋がるすべてのようばくがおぢばへ帰り、かんろだい、また教祖殿へ足を運び御礼をさせて頂き、詰所にてようばく帰参台帳に記帳して頂くこととなりました。特にようばくの方は今年1年の間に必ずおぢば帰りをさせて頂き、おやさまに御礼をさせて頂きましょう。皆様本年もどうぞよろしくお願い致します。

立教百八十九年 正月

網走大教会長 三幣 健志

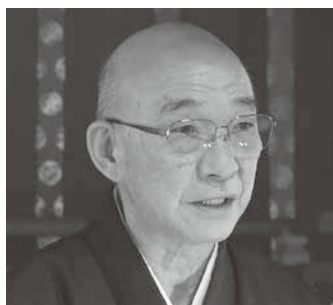
大教会十二月月次祭

大教会12月の秋季大祭は、12日午前9時30分から大教会長祭主のもと、執行された。

大教会長は祭文で、「本年は、教祖百四十年祭へと向かう三年千日の仕上げの年として、引き続き『教祖のひながたを目標に全教会心定めの達成』を活動目標に掲げ、網走大教会に繋がる全ての教会長が、人の御守護を頂戴するべく、ひたすら声掛けに奔走さ

神殿講話

新川 正人 理事



神殿講話全文

おやさま年祭活動仕上げの年、それぞれの心定め完遂に向かつて皆様方、大教会長様を先頭に大教会一つになって動き努めさせて頂きます事から心からお労いを申し上げます。

せて頂きました。中でも理づくりとして本年は、論達の実働十万件を心定めさせて頂きましたが、網走に繋がるもの達が一丸となり取り組んだ結果、三十万件に迫る勢いとなり、お陰によりまして、仕上げの年にふさわしい大きな人の御守護を頂戴させて頂きました」と奏上した。

お働きは、日々感じておられると存じますが、本日は、私の信仰とでも申し上げますが、私が、存命のおやさまを感じさせて頂いております事、幾つものある中、私なりに、三つお話させて頂きます。

一つ、おさづけの理

二つ、おつとめ、

・おさづけの理

まずはおさづけであります。私が、私は小さい頃、身体が弱くて、網走のよふぼくでありました、笹谷ヨシ子婦人様にいつもおさづけを取り次いで頂いておりました。取り次いで戴くたびに何か温かく、おやさまに抱いて頂いておるような心もちになっていました。お陰様で段々、ご守護いただき、元氣にならせて戴き、おやさまのおかげだなと思うようになり、おやさまに恩返しをさせて頂くには、お助けのお道を生涯、通らせて頂くこと、十五歳の時に、網走、当時は分教会でありましたが、徳三郎四代会長様の親心で住み込みをさせて頂きました。その頃はおやさま八十年祭

年祭までひと月半あまりとなりましたが、まだまだ悔いのないようそれぞれの心定めに向かつて進ませていただきましょう。

只今は、御存命のおやさまの年祭をお迎えさせて頂く時旬であります。ここで改めて存命と、国語辞典で紐解くと、存命とは、この世に生きていること、又は生き続けること、死なずに生きた状態のままでいる事と書いてあります。

皆様も、存命のおやさまの

のおかげと思い、おやさまにお礼申し上げ、何事もなく又、枝切りをさせて頂きました。この事を二、三日後、妻に言いましたらやっぱり叱られました。その後、私が外仕事をすると、私がケガをするのを映そうと思っているのか、家内が後ろから携帯電話で写真を撮るようになりました。ことわざに「老いては妻に従え」と。今までも、煎餅事件、梅干し事件等、夫婦も五十六年も経ったらそうなりますが、二人で一人と、妻に支えられております。

お守り、ご供さん、私共、何かと不思議な事をいつもお見せ頂きます。おやさまの数々のご守護は数え切れないほどありますが、おさづけの理、おつとめの理、お守り、ご供さん、三つに分けてお話をさせて頂きました。話が交わりますが、終わりにあたり、今の日本は少子高齢社会であります。

明治二十年、おやさまお在世当時、日本人は、平均寿命は、男女五十、六十歳位でありました。今日の平均寿命は八十、九十歳位で考えますと、

今は、三十年以上、寿命が伸びている。おやさまは九十歳で現身を隠されましたが、私が思うに当時として、百十歳以上当たり、当時の寿命を思えば私共の為、おやさまはひながたの道等、助かる道をお教え下さる為、長寿でご在世下されたと思います。

・ちよと身上に知らせた

私はお手引き頂き、おやさまのよふぼくとして、後期高齢のこの年までお使い頂いております。これからもおやさまにお使い頂きたいと願っております。

今、お道の上も、少子高齢化進んでいます。よふぼくに年齢は関係ありません、高齢者は高齢者の出来る役目がまだまだあり、おやさまにお使い頂けます。

「神の自由してみせても、その時だけは覚えて居るなれど、一日たつ、十日たつ、三十日たてば、ころっと忘れてしまふ」

鈴木邦廣六代会長様は、このお道はご報恩報じの道であり、私たちは「ぢばに」つくし運ばせて頂き、神様、おやさまの御恩を忘れず、又 人

い方、行いの通り方をお教えください「心得えちがい」はこの様に振ります。おやさまの心にあつていない、合わせない手振りであります。

やさしい、丸い円を描いて手を胸に当てます、角が無い心を表す、難渋の姿等、おやさまは一れつ国々までも助け行くと、助けたい、助かる姿を、手振りでお教え下さいます。で、ありますから私共はおつとめに心を込め、勇んだ陽気な姿で、教え通り、間違いないよう 勤める事が大事だと思ひます。

真柱様は、「諭達」の中で教会に足を運びなさいと言つて下さいます。おつとめを勤める教会は、おぢばより、その所在地、その所にお許し下さり、お目標様をお下げ戴き、親神様、おやさまがぢばよりその所に出張つて守護下さいます、そしておやさまのお社は、二十四時間昼夜、お屏が開いていて、「やまとばかりやないほどに くにくにまでもたすけゆく」と存命でお働き下さいます。

教会は助かる、助ける道場であります。ありがたい、嬉



てもらおうと企画したもの。今回は、石神井分教会長（都大教会）・小西仁郎先生（38歳）をお迎えし、「働きながら信仰する形」と題して、働きながら信仰する大切さ、難しさ、嬉しさなど、先生の体験を通じて感じていることをお話し頂いた。

その後の親睦会では、同じ大教会で同じ東京に住んでいても、初めましての方も多く、新しい繋がりに終始話も盛り上がっていた。

今年は札幌開催も予定しているのですが、ぜひご参加をお待ちしております。

おさづけの理を拝戴したのは、年祭の年でありました。おやさまは子供可愛いゆえに、助かってもらいたい、人助けの為に、おさづけの理を私共にお渡し下さいます。

私は身上を通しておやさまが手をひいて下さり、お手引きして頂いたからには、手を離さないよう通らせて頂き、よふぼくとして、夫婦が、喜寿のこの年までそれぞれの立場を通して頂いております。ここにいる皆様も違いはありますが、お手引きを頂いております。お互い、おやさまからの手をしっかりと離さない事が大事であります。以上おさづけの理を通してお手引きの話をさせて頂きました。

・おつとめを通して

二つ目ではありますが、世間では、天理教は踊る宗教と言いますが、他の宗教もおつとめの仕方が多々ありますが、教えを、物事を人に伝えるには、口からの言葉、体の動き、手の動き等で伝わると思います。おやさまが教えて下さいましたおつとめは、言葉として、みかぐら歌には明るい節をつけて下さり、手ぶりと陽気な

九つの、鳴り物入りの音楽のおつとめであります、その一つ一つには理が備わっており、全てにおいて人々が悟れるよう、分かるよう、天の理をお教え下さいます。

私は毎日の中、おつとめの座り勤め、十二下りのみかぐら歌を通して、おやさまの姿、拝する事は出来ませんが、「いつまでしんじんしたとても やうきづくめであるほどに」と、うれしい日、悲しい日、雨の日も風の日も、又、因縁の姿を見せて頂いた時等、今まで長い人生の中、何度か悲しい涙を流した日があります。その時毎、おやさまが子ども助けたい故の御苦労のひながたを思い辿り、おやさまは、助けたい、私に声をかけて頂いていると思う、「ここまでついてこい」「なんでもなんぎハささぬぞへ たすけいちじよのこのところ」と親の心、存命のおやさまの温かい言葉に支えられ、持たれ、たんのうさせて頂き、通らせて頂いております。

お勤めの手振りでありますが、その一つ一つにも、天の理があり、手の振りで心の使

しい涙をお見せ下さるのが教会であります。

・お守り、ご供さん

三つ目ではありますが、私は毎朝ご供さんを、一袋を分けながら頂いております、おやさまに今日も心して通らせて頂きますと、お願い申し上げます。

ご供さんはおやさまからの身上助けのためのもの、親心より下付して下さいます。

又、お守りは、ぢばに帰った証拠として、おやさまのお召しになった赤衣を小さく裁つたものをお下げ戴きます。肌身離さず身に付けていると、心次第で、大難は小難、無難にお守り下さいます。

今、世界では争いが多く、難渋な人々が大勢出ています、日ノ本では、自然災害等、多くの人が不安になっている現状です、私がお守りを戴いたのは十代の頃で、六十年は過ぎ、赤衣も薄くなり小さくなりましたが、お陰様で今までに身の危ない所、何回もお守り頂いております。

又、私の家族、孫達がおまもりをいつも身につけて、風呂に入る時、外したり、つけ

たりする姿を見るにつけ、有り難い姿とうれしくなります。最近の出来事です、私は会長を引いて、網新の青年勤めの心もちで通らせて頂いております。

毎日、八十五才の婦人さんを始め、それぞれの方が教会のひのきしんをして下さり、私は、足腰が弱くなりましたが、外回りの事をさせて頂いております。

妻から、もう年だから、ひのきしんや力仕事を、無理しないようにといつも言われていて、ある日、教会の松の枝を切るために、梯子に登ってましたが、梯子の三段目位から滑って肩から落ちました。

落ちながら、これは怪我するなと思ひながらふと脳裏に浮かんで来たのは、何と妻の顔でした。怒られる、ケガとダブルパンチを食らうなと思ひながら落ちましたが、不思議に地面に落ちた時、誰かに優しく抱きかかえられ、受け止めてくれた様な感覚でした。痛みもケガもなく、私はしばらく放心状態で横たわっていました。「あ、怪我しなくて良かった」と。これも、お守り

たります姿を見るにつけ、有り難い姿とうれしくなります。最近の出来事です、私は会長を引いて、網新の青年勤めの心もちで通らせて頂いております。

毎日、八十五才の婦人さんを始め、それぞれの方が教会のひのきしんをして下さり、私は、足腰が弱くなりましたが、外回りの事をさせて頂いております。

妻から、もう年だから、ひのきしんや力仕事を、無理しないようにといつも言われていて、ある日、教会の松の枝を切るために、梯子に登ってましたが、梯子の三段目位から滑って肩から落ちました。

落ちながら、これは怪我するなと思ひながらふと脳裏に浮かんで来たのは、何と妻の顔でした。怒られる、ケガとダブルパンチを食らうなと思ひながら落ちましたが、不思議に地面に落ちた時、誰かに優しく抱きかかえられ、受け止めてくれた様な感覚でした。痛みもケガもなく、私はしばらく放心状態で横たわっていました。「あ、怪我しなくて良かった」と。これも、お守り



立教189年の元旦祭は晴天の中、元日の午前8時に執行された。

直轄信者、住み込みで今年初めの座りづとめ、12下りのおつとめが勇んでつとめられ、教祖に年始のあいさつをさせて頂き、大教会長より「全うばくおぢばがえり」のことなどのお言葉を受け祭典を終えた。

祭典終了後、集合写真を撮り、年始の言葉としておふでさきを頂戴し、食堂にてお節やお雑煮を和やかに歓談しながら頂いた。

大教会 元旦祭

トピックス 修養科を修了して

・眞壁 弘道（栗沢）

三回目の修養科ですが、修養科に入る前の事前研修が良かったです。詳しい内容や面白いお話が聞けてとても楽しかったです。

二回目の修養科は、身上の為修了できませんでしたが、今回は修了させて頂き感激しています。自教会で、ひのきしんに励みたいと思います。おぢばの意義がよく理解できました。

「上手に他人に伝える」とこれがこれからの目標です。おつとめ・教会に参拝すること・ひのきしんに励むこと。頑張っていきます。

・倉井 悠丞（誠綱）

この修養科三ヶ月を思い返すと、あつという間の三か月でした。

最初は、不安で恐怖感もありましたが、一ヶ月目は、周りの人たちと馴染むことや、ご年配の方のお世話役をさせて頂き、自分のことはあまり

考えられなかった状況でした。

二ヶ月目は、自分の時間も大切に、神様との時間を大切にしようと思ひ通りました。

修養科にも慣れてきて楽しさが分かってきました。特に、神様との時間を大切にしました。「自分らしさ」「心の状態」をすぐ意識していました。

そして三ヶ月目。みんなと過ごす一日一日がどれだけ尊いものか！嬉しいこともあれば、いろんなことを、いろんな人を通して感じさせて頂いた修養科。

「目に映る世界は、自分の心の写し鏡」。

日々どんな心で過ごすか、どんなことも喜んで通らせていただく。感謝をベースとして修養科で学んだことを日常生活でも意識していきます。

修養科に来て本当に良かったです。とても嬉しいご縁を頂けたこと、本当にありがとうございました。

・小笠原 敏子（誠綱）

今回、四回目の修養科で勉強させて頂きました。

神様が作って下さった私たちの身体は、百十五歳まで生

きる力を頂いているのです。勝手に百歳まで等と決めないことが大切と知りました。

自分の心との戦いの三か月でした。「八つのほこり」がいっぱいあるのを発見し、人間の能力は、想像もつかない無限大の可能性を神様から頂いており、これを開花させるには「人をたすけて我が身たすかる」「神様のお言葉通り実行するということ」だとはっきりわかりました。

今の仕事は、教えてくれた



教祖140年祭予定



＜スケジュール＞

- ・1月26日 10:30 140年祭執行
夕食時 140年祭懇親会
- ・1月27日 10:00 お礼づとめ
15:00 教会長年祭反省会
- ・24日～29日
朝づとめ 06:00 タづとめ 17:00
- ・【別席】※26日 別席はございません
その他の日は通常通りです。
午前席受付 08:00～09:30
午後席受付 12:00～13:30
- ・特別展示「おやさま」 於：南右第2棟
24日～27日 10:00～15:00
※26日は14:30～16:30

＜送迎バス運行予定＞

- ・1月24日
伊丹発 ①15:00 ②18:30
関空発 ①14:00
- ・1月25日
伊丹発 ①14:00 関空発 ①16:00
- ・1月27日
伊丹行 ①11:00 関空行 ①08:00
- ・1月29日
伊丹行 ①07:30 関空行 ①07:30



旭網分教会三代会長 栗林リツ子様お出直し



旭網分教会三代会長・栗林リツ子さんが、昨年12月1日出直された。享年94歳。

葬儀は3日みたまうつし。翌4日告別式が網走ベルコ会館にて細木善信大教会役員斎主のもと執行された。

栗林さんは、昭和7年12月24日東京都立川市生れ。都立多摩高校を卒業。昭和31年1月修養科を修了。昭和38年10月道雄さんと結婚。1男4女を授かった。昭和59年9月旭網分教会3代会長拝命。令和3年9月代を譲り、網走大教会に住み込んだ。

お鏡餅つき

●大教会お鏡餅つき

12月28日、午前8時45分から、大教会長夫人を芯に参拝し、お鏡のお餅つきを開始した。お鏡餅は31日のお礼づとめ、元旦祭にお上げするお餅をつくった。



引き続き一般の方々とお餅つきを11時から開催。参拝をして食堂にてお餅つきをした。80代の方から幼児までみんなでお餅をつき、お鏡餅や丸餅などを作った。

昼食にはつきたてのお餅を皆で頂き、最後に集合写真を撮り、自分でつくったお鏡餅や丸餅をお土産に持ち帰った。

▼参加者 大人21名 子供9名

●詰所本部お鏡餅つき

12月25日網走詰所にて、北海道・関東・関西からひのきしん者が集まり、本部元旦祭に御供えするお鏡餅をつかせて頂いた。

一年間のお礼を込めて、皆慣れた手つきで順調に、一つ一つ丁寧に心のこもったお鏡餅が完成した。▼参加者25名



立教188年人のご守護心定め			
初席者	ようばく	修養科修了者	教人
51名	23名	18名	6名
成果 (12月末現在)			
26名	13名	21名	4名

月6日、大教会祖霊殿にて大教会長祭主のもと執行された。

▼知床分教会二代会長・半澤綾の霊様10年祭が12月10日、大教会祖霊殿にて大教会長祭主のもと執行された。

▼陽光分教会所属・桐谷良治の霊様50日祭が12月13日陽光分教会にて、桐谷厚平・陽光分教会前会長祭主のもと執行された。

▼誠央所属・永井順子の霊様の1年祭が11月22日、神奈川県厚木市の自宅にて永井康幸・誠央分教会会長祭主のもと執行された。

教祖140年祭
三年千日の
活動方針

「教祖のひながたを目標に
全教会心定めの達成」

動 静

▼直轄所属・瀬川巖の霊様50年祭、網陰分教会二代会長・瀬川多津恵の霊様10年祭が12

▼大教会長夫妻に12月2日、次女誕生。「恵利奈（えりな）」と命名された。

誕生

12月人の「守護

○初席者（1名）

オホーツク 山下 貴世華

○中席者（3名）

直轄 勝又大輔

陽光 村田聖

網新 新川來暉

○おさづけの理拝戴者（2名）

直轄 浅田幸斗

直轄 浅田優

○修養科修了者（5名）

直轄 武田栄

直轄 武田典子

陽光 桐谷沙也加

誠綱 菅原真弓

誠綱 八重樫捷子

○教人資格検定講習（全期）

修了者（2名）

網新 椎木勝

誠綱 中島義博

○教人登録者（4名）

直轄 大畑周子

網新 椎木功勝

誠綱 中島義博

育英会寄付者

瀬川家様（年祭）

渡井達也様（母葬儀・出直）
旭網分教会（三代会长出直）

大教会12月の動き

1日 役員会会議。直轄世話人会

6日 お話し食堂。会長、瀬川巖の霊様50年祭、瀬川多津恵の霊様10年祭祭主つとめる

7日 縦の伝道日

9日 網走支部例会会場

10日 役員会会議。会長、半澤綾の霊様10年祭祭主つとめる

11日 教祖140年祭網走おたすけ委員会会議。育成部部会

12日 月次祭。役員会会議。連絡会。ようき会役員会

13日 教会長夫妻練り合い

14日 縦の伝道日

17日 網走支部婦人会例会

20日 会長、札幌方面信者宅まわり（22日まで）。こども会

23日 会長、おぢばがえり。詰所23会

24日 会長、本部神殿奉仕つとめる

25日 五季御礼。詰所お鏡餅つき。年末年始話し合い

26日 本部月次祭遙拝。結城和広役員、本部神殿奉仕つとめる。1年のお礼づとめ

27日 会長、かなめ会出席。藤山重善役員、本部神殿奉仕つとめる

28日 お鏡お餅つき。お餅つき

29日 大教会一斉活動日

30日 みそか会

31日 元旦祭準備

仕上げの年

諭達の実動十万件

年祭当日をうれしい心で迎えよう

実動件数

258,017件

（11月12日現在）

立教188(令和7)年人のご守護成果表（12月末現在）

教会名	初席	中席	ようぼく	修卒	教人	婦参者		教会名	初席	中席	ようぼく	修卒	教人	婦参者	
						当月	累計							当月	累計
直轄	5	23	5	7	1	1	124	誠央	1	1				1	25
美幌							7	常道							2
女満別	1	1				2	59	徳道	1	5	1			2	54
斜里町							2	満金		1					3
釧厚				1			12	網安		1					1
武士				1		1	10	オホーツク	3	2				2	16
常呂		1				12	61	網徳							4
旭網	1	2				1	18	栗沢		6	1	2			32
御料		2	1			2	11	徳元		1	1				18
東藻琴							1	網盛		1					5
陽光	2	2		1			20	網新	1	8		2	2	1	19
呼人						1	14	網葉							1
誠陽		2					8	網陽							12
網栄		1					6	誠綱	7	26	4	7	1	3	84
實東	2	2				1	52	網次	1	7					27
東網	1						7	網昇		1					27
宗稚						1	18	勇走						1	14
								詰所							152
初席	成果	中席	成果	ようぼく	修卒	教人	婦参者	初席	成果	中席	成果	ようぼく	修卒	教人	婦参者
当月	1	26	4	96	2	13	5	21	4	4	32	926			

秋季大祭 12/12(日)

〈参拝者数 約120人〉									
神楽講話	賛者	指図方	扨者	祭主	祭典役割				
新川 正人	田安三村永 中田澤井井 光春康 繁広雄実幸	細木 善信	小松 篤志	大教会長					
胡三 味琴 弓線	小す太拍ち り 子ん笛 が ぼん 鼓ね鼓木	地 方	てをどり		座りづとめ	前 半	後 半		
藤丸瀬 井山の とく江	三栗三澤結 幣幣田城木 正徳敦忠和 志正志和広	瀬丸藤 川山山 定一重 自徳善	藤三太 山幣会 道輝夫 子子入	大新大 教会教 長雅正 人入人					
藤瀬結 山川城 美和 真祐和 理子	清瀬遠栗吉永 水川田村林井	田菅小 中原松 明篤 繁宏志	青三新遠在 幣幣川原山	聖有知明道正 子子子子子					
新瀬三 川川幣 千徳祐有 子子子	澤瀬奥清藤岩 田田野水山原	三三村 幣澤井 敦春 志雄実	眞結三遠新眞 壁城幣藤川壁	香和代浩正 織子子子二教					